

## 事業計画

	事業名	料理教室を通じた父親の意識改革事業
	団体名	MAISON IZARRA Oyatsu labo * T naturel メゾン イザラおやつラボ*テ ナチュレル
	事業担当課	男女共同参画課
事業概要		
父親の家事・育児への参加促進や、男女は対等なパートナーであることの理解促進の為に、父親と子供が共同で料理をつくるイベントとワークショップを実施します。		
松戸市の課題	<p>松戸市では、職場、家庭、学校、地域などあらゆる分野で、女性も男性も個性と能力を発揮し、対等なパートナーとして社会に参画し、自立的な生活を営むことを「男女共同参画」として捉えて施策を進めています。</p> <p>しかし、周囲の家族へのヒアリングや資料(※参照)によると、父親が子どもと一緒に過ごす時間は、その家族が希望する理想の状態とはほど遠く、男性の半数以上が1日1時間未満で、少ないというのが現状です。</p> <p>共働き世帯が増えている現状の中、男女が対等なパートナーとして互いに認識し、日々の生活の中で家事・育児を主体的に分担していくことが、今後ますます必要であると考えます。</p> <p>※資料「男女共同参画社会に関する市民意識調査」(令和3年度 松戸市)P. 25 3-(1)問4 仕事・家庭生活・地域や個人生活の優先度【現状】【希望】</p>	
事業の目的	<p>松戸市男女共同参画プランでも定められている</p> <p>「男性が家事・育児に関わることへの抵抗感を減らす」、</p> <p>「さまざまな分野で女性と男性一人ひとりの能力ををいかす」ために、弊団体の強みである「料理講習」を活用して下記の目的を達成します。</p> <p><b>【事業の目的】</b></p> <p>① 父親と子どもと一緒に料理をする機会の提供を行うことで、男性が家事・育児に関わるきっかけづくりを行います。</p> <p>② 料理教室の後にワークショップの時間をとり、父親の家庭参画に対する意識改革を図ります。</p>	
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>① 父親と子ども向けの料理教室を実施します。(年4回)</p> <p>② 3時間(2.5時間程度の調理イベント+ワークショップ30分)のプログラムを組み立てます。</p> <p>③ レシピの作成や試作、材料の選定・調達・小分け計量を行います。</p> <p>④ 軽食に応用できるメニューを紹介し、応用の仕方などを伝えます。</p> <p>⑤ 広報用のチラシ・ポスターを作成し、男性の多い職場にチラシを送付して周知します。</p> <p>⑥ イベント当日は、普段はパティシエの仕事を行なっている専門スタッフが調理レクチャーを行い、団体のスタッフがサポート役に回ります。</p> <p>⑦ イベント終了後、振り返りを行い、次に向けた改善点を洗い出します。</p>	

## 2 スケジュール

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
6月	父と子のお菓子づくり 体験教室 季節の果実のチーズケーキ（卵不使用）	市民会館 料理教室、 父親と子ども ワークショップ：外部講師
8月	父と子のお菓子づくり 体験教室 クレープ	市民会館 料理教室、 父親と子ども ワークショップ：外部講師
10月	父と子のお菓子づくり 体験教室 ハロウィンモンブラン（卵不使用）	市民会館 料理教室、 父親と子ども ワークショップ：外部講師
12月	父と子のお菓子づくり 体験教室 クリスマスケーキ	市民会館 料理教室、 父親と子ども ワークショップ：外部講師

\*感染症の影響がまだ懸念されるため、ソーシャルディスタンスが確保可能な市民会館での開催をします。

### 【事業内容の目的ポイント】

- ・特別な道具や材料を使わず、家庭でもおやつや軽食にも利用しやすいメニューを、父親と子どもでお互いに学びながら共同作業を楽しむことができ、男性の家事・育児への心象的なハードルを下げます。
- ・食物アレルギーに配慮し、卵不使用メニューでの開催も行います。
- ・調理終了後にはワークショップの時間を設け、父親と子どもの意見交換を通じて、男女共同参画への父親の理解を深めます。

### ○ワークショップについて

- ・1年目は、統計資料等をもとに父親が家事育児に参画する必要性を説明するなど、参加者の意識を高めることを図った。また講師から参加者へ質問をするなどの対話形式でのコミュニケーションを行いました。
- ・2年目は、参加者が興味を持ちやすい実生活での話題を多く取り上げ、参加者が別の参加者の話を聞くことで、自身の家庭参画の現状を振り返り、また、自分もやってみようという前向きな意識になるようコミュニケーションを多く取り入れたワークショップを実施しています。
- ・3年目には、これまでの実施してきた経験から、男性は日頃、育児や家事などについて誰かと話す機会が少ないようですので、コミュニケーションを図ることが特に参加者の意識改革に繋がると感じています。

上記のことから、参加者同士の交流を図れるような、コミュニケーションを中心としたワークショップを実施することで、参加者の意識改革を図り、まずは家庭での実践に繋がることを目指します。また、パパサークルの活動等を紹介することで父親が地域で活躍できる場として、地域活動にも興味を持ってもらえるようにします。

事業の目標	<p>① 料理イベントを年 4 回程度開催し、感染拡大状況に応じ、各回 10～15 組 20～35 名を集客します【参加人数（最大）60 組 140 名】</p> <p>② 父親の男女共同参画への理解と、家事・育児に関する意識を高めます。（参加者へアンケート調査を実施し、目標達成度を測定します）</p> <p>③ 父親と子どもに、ものづくりの楽しさ、食の大切さを伝え、参加者は、家庭でもおやつや軽食が作れるようになります。</p> <p>④ 男性の家事・育児への心象的なハードルを下げます。</p>
協働の必要性 （団体）	<p>・市と協働する事により、信頼と安心感をもってもらえ、イベントに参加しやすくなります。</p> <p>・団体の自己資金が少ないため実施できなかった、父親向けの事業を行うことができます。</p> <p>・市の広報力により、より必要な親子へ向けての広報が可能になります。結果として、効果的なプログラムを、より必要な親子に向けて提供することが可能になります。</p>
協働の必要性 （市）	<p>昨年、本課で実施した市民意識調査において、家庭内労働の分担を質問したところ、男性は現状、「主にパートナーが分担し、自分は手伝う程度」と回答した人が 5 割以上でしたが、希望としては、「自分がもう少し分担した方がよいと思う」が 4 割程度いました。また、「男性が家庭参画するために必要なこと」として、女性で一番多かった回答が「男性の家事参加の抵抗感をなくすこと」で 5 割を超えていたことから、男性の意識改革と家事参加のきっかけづくりが重要であると感じています。</p> <p>男性の家庭参画のきっかけづくりとして料理教室を開催することは、非常に効果的と考えていますが、料理のノウハウがないため、市単独で料理教室を主催することは困難だったことから団体との協働は、お互いに良い機会となっています。</p> <p>さらに、料理の専門的な知識と経験を有する団体と協働して事業を実施することで、市民の方からは一流の料理人に料理を教えてもらえるまたとない機会と魅力的に映り、市単独で事業を実施するより多くの方に興味を持っていただけることから、引き続き協働して事業を実施したいと考えています。</p>
事業実施の役割 分担	<p>① 団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理イベント（2.5 時間）＋ワークショップ（30 分）のプログラムを組み立てます。</li> <li>・レシピの作成や試作、材料の選定・調達・小分け計量、広報用チラシ・ポスター作成</li> <li>・イベント当日は、団体スタッフが調理レクチャーとサポートを行います。</li> </ul> <p>② 男女共同参画課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ講師の選定・依頼、内容の調整。</li> <li>・広報まつど、市ホームページでの周知等の広報活動。</li> </ul>
今後の展望	<p>協働事業終了後も定期的に父親と子ども対象のお菓子作り体験教室を開催して学びと体験を提供し、参加費として収入に繋げ、男性の家事・育児に関する意識を高めていきます。</p>

## 事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥388,824	※別紙 労力換算計算書 参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	MAISON IZARRA Oyatsu labo * T naturel 団体拠出金	¥ 83,692	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (B)	¥ 83,692	
市	協働事業負担金 (C)	¥458,388	
合計額 (D) = (B + C)		¥542,080	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥120,000	外部講師謝礼（ワークショップ） 15,000円×4回×2人
	消耗品費	¥268,200	食材 1,630円×35人×4回 試作材料5,000円×2回分×4回
	消耗品費	¥ 49,760	資材 クッキングシート800円×10、ラップフィルム550円×16、絞り袋72枚入3,000円×2、ムースフィルム100枚2,200円、デザートカップ蓋付75円×100、台所用洗剤100円×12、スポンジ3個入220円×8、食品用アルコールスプレー1,200円×2、ハンドソープ300円×8、キッチンペーパー150円×4、ビニール手袋100枚入2,000円×2、ペーパータオル200組220円×4、保冷剤50個入800円×2、食品用保存袋50枚入150円×4、ケーキトレイ50枚入1,050円、ケーキ箱25個入770円
	消耗品費	¥ 30,360	チラシA4/1000部×4回 チラシ用紙(500枚)658円×8セット、インクカートリッジ5色パック6,045円×4セット、ラベル229円×4個
	使用料及び賃借料	¥ 33,600	会場使用料（試作・料理教室） 2,000円×12回（レシピ作成試作4回、作業工程確認・注意点共有試作4回、料理教室4回）2,400円×4回 設備及び備品使用料（ワイヤレスマイク）
	通信運搬費	¥ 7,400	チラシ送付用 レターパック370円×20枚（5箇所×4回）
	対象経費の合計 (E)	¥509,320	
	（その他） 対象経費	食糧費	¥ 10,000
交通費		¥ 20,000	会員の交通費 500円×4人×4回 搬入搬出タクシー代 1,500円×2×4回
通信費		¥ 2,760	ゆうパック 690円×4回
その他経費の合計額 (F)		¥ 32,760	
合計額 (G) = (E + F)		¥542,080	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

## 労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間回数×953円
	料理教室を通じた父親の意識改革講座打合せ（8回）	76,240 円	5 人 × 2 h × 8 回 × 953 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講座試作会（8回）	60,992 円	2 人 × 4 h × 8 回 × 953 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講座準備（8回）	114,360 円	5 人 × 3 h × 8 回 × 953 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講座（4回）	57,180 円	5 人 × 3 h × 4 回 × 953 円
	チラシ制作	19,060 円	1 人 × 5 h × 4 回 × 953 円
	報告書作成	22,872 円	2 人 × 3 h × 4 回 × 953 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講座振り返り、反省会（4回）	19,060 円	5 人 × 1 h × 4 回 × 953 円
	料理教室を通じた父親の意識改革講座片付け、清掃（4回）	19,060 円	5 人 × 1 h × 4 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
			人 × h × 回 × 953 円
合 計 (A)	388,824 円		